

小山工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	国語ⅠⅠⅠ	
科目基礎情報							
科目番号	0062		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義・演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	建築学科		対象学年	3			
開設期	通年		週時間数	2			
教科書/教材	『国語表現 改訂版』『国語表現基礎練習ノート 改訂版』（大修館書店）、『パスポート国語必携国語常識の演習と確認（四訂版）』（桐原書店）、『Sメソッドによる伝え合う力のトレーニング』（オリジナル教材）						
担当教員	柴田 美由紀						
到達目標							
1. 日本語の特徴を理解し、適切に表現することができる。 2. 受け手を意識して、機能的に表現することができる。 3. 国語の語彙や知識を身につけ、実践的に運用することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	日本語の特質を明確に理解し、正確に適切な運用と表現ができる。		日本語の特質を理解し、適切な運用と表現ができる。		日本語の特質を明確に理解できず、正確に適切な運用と表現ができない。		
評価項目2	受け手を明確に意識して、優れて機能的に表現することができる。		受け手を意識して、機能的に表現することができる。		受け手を意識して、機能的に表現することができない。		
評価項目3	国語の語彙や知識を十分に身につけ、実践的に運用することができる。		国語の語彙や知識を身につけ、実践的に運用することができる。		国語の語彙や知識を身につけ、実践的に運用することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 ⑥							
教育方法等							
概要	国語表現に関わる基本的な知識を身に付け、特に話す・聞く・書く・読むという言語活動に関わる実践的能力を伸ばすことを目的とする。						
授業の進め方・方法	授業は講義・演習形式で行う。読む、書く、話す、聞く活動を通して日本語の知識や表現力を養う授業である。積極的に参加し、日本語力に磨きをかけてほしい。						
注意点	小テスト・提出物・表現活動を60%程度、前期末試験を40%程度で評価する。漢検や作文コンクールに入賞した場合は、その内容に応じて加点する。状況に応じてシラバスを変更することがあるので、随時チェックすること。9月28日修正						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の進め方・評価方法について理解する。		
		2週	整った文を書く①：表記と言葉（日本語の表記の特徴） 国語常識テスト①		日本語の表記の特徴について理解する。 国語における一般常識を身につける。		
		3週	整った文を書く②：表記と言葉（仮名遣い）		文の係り受けを正しく対応させられるようにする。		
		4週	整った文を書く③：係り受け 国語常識テスト②		文体を整える方法を学ぶとともに、日本語の文体史について理解する。 国語常識を身につける。		
		5週	整った文を書く④：文末表現の統一		日本語の音声の特徴について理解する。聴解問題を通して、注意深く聴く姿勢を身につける。		
		6週	整った文を書く⑤：適切な敬語 国語常識テスト③		日本語の音声の歴史について理解する。朗読を通して、正確に発音する姿勢を身につける。国語常識を身につける。		
		7週	整った文を書く⑥：話し言葉と書き言葉		分かりやすい文を書くために、長すぎる文を短文にする手法を理解する。		
		8週	分かりやすい文を書く①：長すぎる文を短文に 国語常識テスト④		分かりやすい文を書くために、読点を効果的に使う手法を理解する。 国語常識を身につける。		
	2ndQ	9週	分かりやすい文を書く②：読点を効果的に使う		分かりやすい文を書くために、あいまいな文を避ける手法を理解する。		
		10週	分かりやすい文を書く③：あいまいな文を避ける 国語常識テスト⑤		敬語の種類について理解する。敬語を用いた電話での応答表現に慣れる。 国語常識を身につける。		
		11週	文のつながり方①：接続表現でつなぐ（接続詞の種類と働き）		敬語の機能について理解する。 国語常識を身につける。		
		12週	文のつながり方②：文脈でつなぐ 国語常識テスト⑥		接続詞の種類と働きを体系的に理解する。		
		13週	自己PRと面接：長所と短所を見つめる、効果的な自己PR 国語常識テスト⑦		文脈による文のつながりを理解する。 国語常識を身につける。		
		14週	メディアを駆使する①：通信文（手紙）の書き方 国語常識テスト⑧ 前期定期試験の説明		手紙文の書き方を理解する。 国語常識を身につける。		
		15週	（前期定期試験）		手紙文を作成する。 前期定期試験の範囲について理解する。		

		16週		
後期	3rdQ	1週	(1) 後期ガイダンス (2) プレゼンテーション課題の説明 (3) メディアを駆使する②：手紙文の作成	(1) 後期の授業内容について理解する。 (2) プレゼンの課題について理解する。
		2週	(1) 前期定期試験の返却と解答の説明 (2) 国語常識テスト①	(1) 試験の解答について理解する。 (2) 適切な話し方や言葉遣いについて理解する。 (3) 国語常識を身につける。
		3週	(1) ショートプレゼンテーション発表① (2)) 国語常識テスト②	(1) 与えられた時間内で話す方法について理解する。 (2) 自分の長所短所について考える。 (3) 国語常識を身につける。
		4週	(1) ショートプレゼンテーション発表② (2) 国語常識テスト③	(1) 聞き手のマナーについて理解する。 (2) 自分に取材する。 (3) 国語常識を身につける。
		5週	(1) ショートプレゼンテーション発表③ (2) 国語常識テスト④	(1) 効果的なスライドの作成方法について理解する。 (2) 効果的な自己PR文の書き方を理解する。 (3) 国語常識を身につける。
		6週	(1) ショートプレゼンテーション発表④ (2) 国語常識テスト⑤	(1) 聞き手の印象に残る話し方について理解する。 (2) 効果的な自己PR文の書き方を理解する。 (3) 国語常識を身につける。
		7週	(1) ディベート①：試合方法（4対4）の説明。論議 決めと班分け。 (2) 国語常識テスト⑥	(1) 試合の方法について理解する。(2) 国語常識 を身につける。
		8週	(1) ディベート②：準備方法の説明。班別準備作業 (リンクマップ作成、データ収集)。 (2) 国語常識テスト⑥	(1) 論議の立て方、データの集め方について理解する。 (2) 国語常識を身につける。
	4thQ	9週	ディベート③：反論対策の説明。班別準備作業（立論 作成、反論対策）。	説得力のある立論の書き方、効果的な反論の仕方につ いて理解する。
		10週	ディベート④：試合リハーサル、第1試合	論理的な口頭表現の方法について理解し、実践する。
		11週	ディベート⑤：第2試合、第3試合	論理的な口頭表現の方法について理解し、実践する。
		12週	ディベート⑥：第4試合、第5試合	論理的な口頭表現の方法について理解し、実践する。
		13週	(1) ディベート⑦：総括 (2) 小論文①：文章を読み取って書く (2) 国語常識テスト⑦	(1) 文章の内容を解釈し、適切な小論文が書けるこ とを目指す。 (2) 国語常識を身に着ける。
		14週	(1) 小論文②：統計資料を読み取って書く (2) 国語常識テスト⑧	(1) 統計資料を解釈し、適切な小論文が書けるこ とを目指す。 (2) 国語常識を身に着ける。
		15週	「国語Ⅲ」の総括	一年間に学んだことを振り返り、身についたことや反 省点を今後活かす姿勢を持つ。
		16週	提出物の返却と評価	この授業の評価について理解する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
	新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3				
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	

				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	2	
				複数の情報を整理・構造化できる。	2	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	

評価割合

	試験	小テスト	発表・課題点	合計
総合評価割合	40	20	40	100
基礎的能力	40	20	40	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0